

新除草・調節剤

S-4160 水和剤

(取扱メーカー) 住友化学工業株式会社

対象作物：タマネギ本畑

性状・作用特性：本剤の主成分は、メチル-4-アミノベンゼンスルホニルカーバメートで、融点が143～144℃の淡橙色結晶である。人畜魚毒性は非常に弱く、実用上無害といえる。本剤は、80%水和剤として製剤してある。

本薬剤は、タマネギ本畑用として実用化された除草剤で、その主なる特徴は、土壌処理、雑草処理のいずれでも効力を有すること、生長点に作用し雑草の生長を止めて枯死に至らしめること、移行性の除草剤であることなどである。効果は非常に遅効性であり、特に雑草処理の場合には枯死させるまでに時間がかかる。選択雑草性は、一般にイネ科雑草に対する効力は強く、

広葉雑草に対する効力はやや劣る。土壌中の移行性はやや大きく、土壌中の残効性は低温時にはかなり長い。また、本薬剤は温度による効力差があり、除草効力が低温で弱く高温で強い傾向がある。

使用方法：タマネギ苗を移植、活着後にアール当り30gの薬剤を6～10ℓの水で希釈し、展着剤を加えて散布機で雑草兼土壌処理を行なう。その後の雑草の発生状況を観察し、必要であれば春先にアール当り20～30gを活着後処理と同じ要領で再度薬剤散布を行なう。

使用上の注意：活着後処理を行なう際、大きな雑草が生え残っていると効力が低下するので、よく耕耘して雑草を取り除いた後にタマネギを移植し、薬剤を散布することが望ましい。また、本薬剤は特にスズメノテッポウ、スズメノカタビラ等のイネ科雑草に対する効力が強いので、これらイネ科雑草が優占する畑での使用が特に有効である。

編集後記

じりじりと照りつける盛夏を迎え、植調第2巻第4号を発刊する運びとなりました。

農林省園芸試験場大畑徳輔先生から、第2号より第4号の3回にわたって、海外の果樹関係除草剤・生育調節剤についての貴重な原稿をいただき、本誌を飾ることができました。誌上をもって重ねて御礼を申し上げます。

また、本号には、秋冬作そ菜関係除草剤・生育調節剤について、その試験成績の概要を収録し、重ねてこれらの薬剤について、詳細に紹介しました。

これらの薬剤について、ご質問がありました

ら、植調編集委員会までお問い合わせ下さい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

電話 東京(03)502-4188～9番

昭和48年8月発行

植調第2巻第4号 ¥70(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河田 党

発行人 植調編集印刷事務所 田口 宏

東京都豊島区池袋7丁目2040番地

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (986) 1063番